

酪肉基本方針（令和7年4月）及び北海道酪肉近計画（令和3年3月、令和8年3月）との比較表

酪肉基本方針（令和7年4月）	北海道酪肉近計画（令和8年3月）骨子（案）	北海道酪肉近計画（令和3年3月）
<p>第1 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する基本的な指針</p> <p>I 総論</p> <p>II 酪農及び肉用牛の需給をめぐる情勢の変化と対応方向</p> <p>1 生乳の需給事情の変化と対応方向</p> <p>2 牛肉の需給事情の変化と対応方向</p> <p>3 飼料の需給事情の変化と対応方向</p> <p>III 持続可能な酪農及び肉用牛生産に向けた取組</p> <p>1 酪農経営</p> <p>(1) 生産基盤</p> <p>(2) 経営安定</p> <p>2 肉用牛経営</p> <p>(1) 生産基盤</p> <p>(2) 経営安定</p> <p>3 国内飼料の生産・利用</p> <p>4 関連事項</p> <p>(1) 担い手の確保、経営力の向上</p> <p>(2) 労働力不足への対応</p> <p>(3) 家畜衛生対策の充実・強化</p> <p>(4) 安全確保の取組の推進</p> <p>(5) アニマルウェルフェア（AW）の推進</p> <p>(6) 環境と調和のとれた畜産経営</p> <p>(7) 自然災害に強い畜産経営の確立</p> <p>(8) 暑熱対策の推進</p> <p>(9) 経営安定対策及び配合飼料価格安定制度の着実な運用</p> <p>(10) 消費者の理解醸成</p>	<p>I 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針</p> <p>第1 北海道における酪農及び肉用牛生産をめぐる情勢の変化と基本的な方向</p> <p>第2 持続可能な酪農及び肉用牛生産の取組</p> <p>1 酪農経営</p> <p>(1) 生産基盤の維持・発展</p> <p>○ 家族経営体の維持・発展</p> <p>○ 畜産クラスター事業等の効果的な活用</p> <p>(2) 収益性の向上</p> <p>○ 飼養管理技術の向上</p> <p>(※アニマルウェルフェアの基本的な考え方を含む内容を記載)</p> <p>○ 放牧酪農の推進</p> <p>○ 性判別精液・和牛精液の効果的な活用</p> <p>○ 乳牛改良の推進</p> <p>2 肉用牛経営</p> <p>(1) 生産基盤の維持・発展</p> <p>○ 肉用牛経営と酪農経営の連携</p> <p>○ 多様な肉用牛経営の育成</p> <p>○ 一貫経営の推進</p> <p>○ 和牛の生産拡大</p> <p>(2) 収益性の向上</p> <p>○ 飼養管理技術の向上</p> <p>(※アニマルウェルフェアの基本的な考え方を含む内容を記載)</p> <p>○ 肉用牛改良の推進</p> <p>○ 早期肥育の推進</p> <p>第3 人材の育成・確保の取組</p> <p>1 担い手の確保</p> <p>2 新規就農者の確保に向けた環境整備</p> <p>3 経営管理能力の向上</p> <p>(※経営安定対策等の着実な運用を含む内容を記載)</p> <p>第4 自給飼料の生産・利用拡大の取組</p> <p>1 粗飼料の生産・利用拡大</p> <p>2 草地の生産性向上</p> <p>3 濃厚飼料の生産・利用拡大</p> <p>4 鳥獣被害対策</p> <p>第5 需要創出の取組</p> <p>1 牛乳乳製品の消費拡大（※ブランド力の向上を含む内容を記載）</p> <p>2 牛肉の消費拡大（※ブランド力の向上を含む内容を記載）</p> <p>3 消費者の理解醸成</p>	<p>I 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針</p> <p>第1 北海道における酪農及び肉用牛生産をめぐる情勢の変化と基本的な方向</p> <p>第2 経営体質の強化に向けた対応方向</p> <p>1 酪農経営</p> <p>(1) 生産基盤の強化</p> <p>○ 家族経営体の経営力の強化と協業法人の推進</p> <p>○ 畜産クラスター事業等の効果的な活用</p> <p>○ 施設整備のコスト低減</p> <p>(2) 収益力の向上</p> <p>○ ベストパフォーマンスの実現</p> <p>○ スマート農業技術の活用</p> <p>○ 経営管理能力の向上</p> <p>○ 放牧酪農の推進</p> <p>○ 性判別精液や和牛精液等の効果的な活用</p> <p>○ 乳牛改良の推進</p> <p>2 肉用牛経営</p> <p>(1) 生産基盤の強化</p> <p>○ 肉用牛経営と酪農経営の連携</p> <p>○ 一貫経営の推進</p> <p>○ 和牛の生産拡大</p> <p>(2) 収益力の向上</p> <p>○ 多様な肉用牛経営の育成</p> <p>○ 飼養管理技術の向上</p> <p>○ 肉用牛の改良の加速化</p> <p>3 地域連携の強化</p> <p>(1) 労働負担の軽減</p> <p>○ 営農支援組織の活用</p> <p>○ 営農支援組織の機能強化</p> <p>(2) 多様な人材の育成・確保</p> <p>○ 次世代につながる人材の育成・確保</p> <p>○ 経営資源の継承</p> <p>4 酪農経営及び肉用牛経営の持続的発展</p> <p>(1) 飼料基盤のフル活用</p> <p>○ 自給粗飼料の生産・利用拡大</p> <p>○ 草地の植生改善</p> <p>○ 自給濃厚飼料等の生産・利用拡大</p> <p>○ 放牧地の条件整備</p> <p>(2) 畜産環境対策の充実・強化</p> <p>○ 家畜排せつ物処理施設の整備</p> <p>○ 家畜排せつ物の利活用</p> <p>(3) 家畜衛生対策の充実・強化</p> <p>○ 家畜衛生対策の推進</p> <p>○ 海外悪性伝染病への対応</p> <p>○ 産業動物獣医師等の育成・確保</p> <p>第3 生産体制の強化に向けた対応方向</p> <p>1 生乳の安定的な生産</p> <p>2 災害等に強い酪農・畜産の確立</p> <p>第4 需要の創出に向けた対応方向</p> <p>1 食の安全と消費者の信頼確保</p> <p>(1) 生産資材の適切な利用</p> <p>(2) 衛生管理の充実・強化</p> <p>(3) 消費者の理解醸成</p> <p>2 ブランド力の向上</p>

<p>第2 生乳及び牛肉の需要の長期見通しに即した生乳の地域別の需要の長期見通し、生乳の地域別の生産数量の目標、牛肉の生産数量の目標並びに乳牛及び肉用牛の地域別飼養頭数の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 需要の長期見通し 2 生乳の地域別の需要の長期見通し 3 生乳の地域別の生産数量の目標 4 牛肉の生産数量の目標 5 乳牛及び肉用牛の地域別の飼養頭数の目標 6 飼料作物の生産数量の目標（令和12年度） <p>第3 近代的な酪農経営及び肉用牛経営の基本的指標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的考え方 2 経営類型の設定の考え方 <ol style="list-style-type: none"> (1) 酪農経営 (2) 肉用牛経営 <p>第4 集乳及び乳業の合理化並びに肉用牛及び牛肉の流通の合理化に関する基本的な事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 集送乳及び乳業の合理化に関する基本的な事項 2 肉用牛及び牛肉の流通の合理化に関する基本的な事項 3 飼料の製造・流通及び生体輸送の合理化に関する基本的な事項 	<p>4 輸出の促進</p> <p>第6 その他の関連事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 労働力不足への対応 <ul style="list-style-type: none"> ○ スマート農業技術の活用による省力化 ○ 営農支援組織の活用 ○ 営農支援組織の機能強化 2 家畜衛生対策の充実・強化 <ul style="list-style-type: none"> ○ 家畜衛生対策の推進 ○ 海外悪性伝染病への対応 ○ 産業動物獣医師の育成・確保 3 安全確保の取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○ 生産資材の適切な利用 ○ 衛生管理の充実・強化 4 環境と調和のとれた畜産経営 <ul style="list-style-type: none"> ○ 家畜排せつ物処理施設の整備 ○ 家畜排せつ物の利活用 ○ 温室効果ガス削減の取組の推進 5 自然災害に強い畜産経営の確立 6 暑熱対策の推進 <p>II 生乳の生産数量の目標並びに乳牛及び肉用牛の飼養頭数の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標 2 肉用牛の飼養頭数の目標 <p>III 近代的な酪農経営方式及び肉用牛経営方式の指標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な考え方 2 経営指標の設定 3 指標の項目 4 酪農経営方式 5 肉用牛経営方式 <p>IV 乳牛及び肉用牛の飼養規模の拡大に関する事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳牛 2 肉用牛 <p>V 飼料の自給率の向上に関する事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 飼料の自給率等の向上 2 飼料需要見込量 3 飼料供給計画 4 飼料基盤の造成・整備計画 <p>VI 集乳及び乳業の合理化並びに肉用牛及び牛肉の流通の合理化に関する事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 集送乳の合理化 2 乳業の合理化 3 肉用牛流通の合理化 4 牛肉流通の合理化 5 配合飼料流通の合理化 <p>VII その他酪農及び肉用牛生産近代化を図るために必要な事項</p>	<p>(1) 牛乳乳製品 (2) 牛肉</p> <p>3 輸出の推進</p> <p>II 生乳の生産数量の目標並びに乳牛及び肉用牛の飼養頭数の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標 2 肉用牛の飼養頭数の目標 <p>III 近代的な酪農経営方式及び肉用牛経営方式の指標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な考え方 2 経営指標の設定 3 指標の項目 4 酪農経営方式 5 肉用牛経営方式 <p>IV 乳牛及び肉用牛の飼養規模の拡大に関する事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳牛 2 肉用牛 <p>V 飼料の自給率の向上に関する事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 飼料の自給率の向上 2 飼料需要見込量 3 飼料供給計画 4 飼料基盤の造成・整備計画 <p>VI 集乳及び乳業の合理化並びに肉用牛及び牛肉の流通の合理化に関する事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 集送乳の合理化 2 乳業の合理化 3 肉用牛流通の合理化 4 牛肉流通の合理化 <p>VII その他酪農及び肉用牛生産近代化を図るために必要な事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 家族経営体の維持・発展のための取組 2 新型コロナウイルス感染症等を踏まえた業務継続に向けた取組 3 需要創出に向けた取組 4 計画達成に向けた関係機関・団体の役割 5 計画の進行管理と評価
---	---	--